

# 翔

百万石蝶談会 No. 165

December 2003



## 特別寄稿 《石川県金沢市のトゲナナフシ》

浅地 哲也

石川県金沢市において、トゲナナフシを多数観察しているのを報告する。本種を初観察したのは2000年8月16日で、それ以後毎年8月には多数の個体を観察している。

本種は、卯辰山寺院群の薄暗い参道周辺に多く、8月に最も多く観察でき、9月になると少なくなり、10月以降には観察していない。観察場所は植物上ではなく地表で、切株に群がっていることもある。

### ■金沢市卯辰山

2000年8月16日 2♀ 浅地哲也

2000年8月20日 10♀ 浅地哲也

2003年8月23日 3♀ 浅地哲也



《あさじ てつや 921-8021 金沢市御影町26-7》

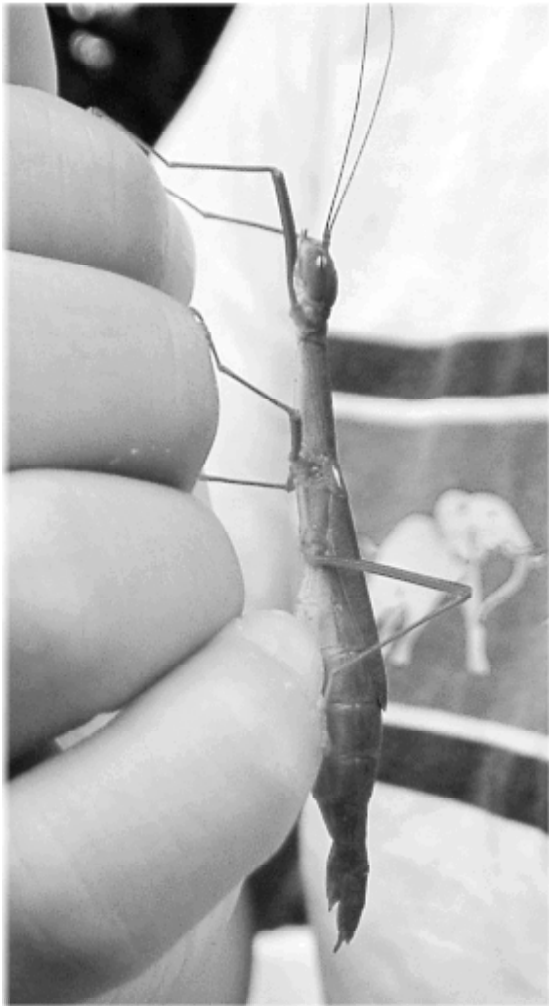
## 宝達山でヤスマツトビナナフシを採集

吉長高嶺・松井正人

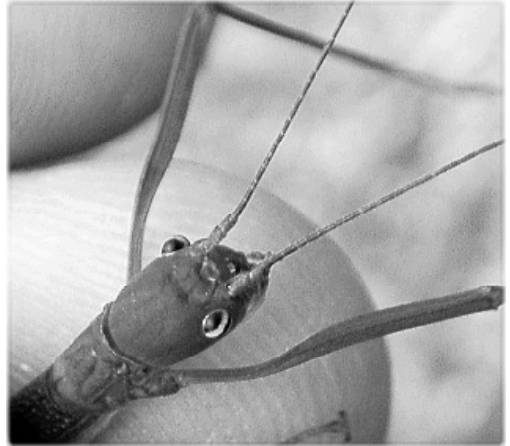
筆者の一人の吉長高嶺は、宝達山の頂上付近のブナ林で、アサギマダラのマーキング中に、ヤスマツトビナナフシを採集したので報告する。報告に際し、同定していただいた石川ふれあい昆虫館の富沢 章氏に、お礼申し上げる。

2003年9月23日 石川県羽咋郡押水町宝達山 1♀採集 吉長高嶺

羽があるナナフシは、ニホントビナナフシ、シラキトビナナフシ、ヤスマツトビナナフシの3種が県内から知られているが、いずれも採集数は少ない。



手に止まり目を細めてくつろいでいるように見える



顔から首にかけてが種の特徴



腹端の形にも種の特徴が現れる

《よしなが たかね 〒921-8171 金沢市富樫3-2-23》

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 北陸三県のナナフシ類と石川県のナナフシ類

松井 正人

## ■北陸三県のナナフシ類

岡田 (1996) は、本邦におけるナナフシの仲間を、コノハムシ科 1 種とナナフシ科 17 種からなる 18 種としている。このリストにあるナナフシの仲間は、石川県から 5 種が記録され、リストに無いナナフシ *Phraortes elongatus* も記録されている (中村、1975)。

隣県の富山県からは 4 種 (根来、1993) が、福井県からは 5 種と岡田リストに無いナナフシ *P. elongatus* とトゲナナフシモドキ *Neohirasea lugens* が記録されている (酒井ほか、1998)。

ナナフシの仲間は、古い図鑑では、和名・学名共に混乱し、日浦 (1993) は、ナナフシ *P. elongatus* をナナフシモドキ *Baculum irregulariterdentatum* と同じものであろうとし、酒井ほか (1998) は、トゲナナフシモドキ *N. lugens* を、トゲナナフシ *Neohirasea japonica* と同種の可能性が高いとして再検討を要するとしている。本稿では、上記の扱いに従い、ナナフシ *P. elongatus* とトゲナナフシモドキ *N. lugens* については、ここでは扱わなかった。

種名	石川	富山	福井
1 ナナフシモドキ <i>Baculum irregulariterdentatum</i> Brunner	○	○	○
2 ニホントビナナフシ <i>Micadina phluctaenoides</i> (Rehn)	○		○
3 シラキトビナナフシ <i>Micadina</i> sp.	○	○	
4 ヤスマツトビナナフシ <i>Micadina yasumatsui</i> Shiraki	○	○	○
5 トゲナナフシ <i>Neohirasea japonica</i> (de Haan)	○		○
6 エダナナフシ <i>Phraortes illepidus</i> (Brunner von Wattenwyl)		○	○

## ■石川県のナナフシ類

ナナフシ類の調査は、分類が混乱してきたこともあって、調査はきわめて不十分で、石川県にエダナナフシや更なる種が分布することは十分考えられ、すでに知られている種でも、その分布や食草といった基礎的な情報はほとんど分かっていないが、これまでに知られている記録を紹介する。

1 ナナフシモドキ *Baculum irregulariterdentatum* Brunner

1990年代	金沢市金沢城跡	多数目撃	大串龍一	大串 (1995)
1991年7月14日	小松市中の峠	1 頭	富沢 章	徳本 (1998)
1993年8月1日	小松市西俣	1 頭	富沢 章	徳本 (1998)
2000年8月5日	金沢市角間	1 頭	北川章夫	
2001年6月23日	金沢市湯涌田子島	数幼	浅地哲也	
2001年6月24日	小松市左礫	数幼	浅地哲也	

2001年7月1日	金沢市湯涌曲	数幼	浅地哲也	
2001年7月1日	金沢市檜見	数幼	浅地哲也	
2 ニホントビナナフシ <i>Micadina phluctaenoides</i> (Rehn)				
1970年10月12日	石川郡鳥越村河原山	1 ♀	中村誠喜	中村(1975)
2000年8月20日	金沢市奥新保医王山登山口	数♀	浅地哲也	
3 シラキトビナナフシ <i>Micadina</i> sp.				
1997年8月20日	石川郡尾口村鴉ヶ谷	1 ♀	富沢 章	
2000年8月20日	金沢市奥新保医王山登山口	数♀	浅地哲也	
2003年8月16日	金沢市医王山三千坊	1♀2幼	浅地哲也	
4 ヤスマツトビナナフシ <i>Micadina yasumatsui</i> Shiraki				
1996年10月20日	小松市上麦口	1 頭	富沢 章	徳本 (1998)
1996年10月25日	珠洲市石神	1 ♀	富沢 章	
1997年7月15日	金沢市倉ヶ岳	1 頭	富沢 章	徳本 (1998)
2003年9月15日	金沢市坪野	1 ♀	浅地哲也	
2003年9月23日	羽咋郡押水町宝達山	1 ♀	吉長高嶺	
5 トゲナナフシ <i>Neohirasea japonica</i> (de Haan)				
2000年8月16日	金沢市卯辰山	2 ♀	浅地哲也	浅地 (2003)
2000年8月20日	金沢市卯辰山	10♀	浅地哲也	浅地 (2003)
2003年8月23日	金沢市卯辰山	3 ♀	浅地哲也	浅地 (2003)
2003年11月15日	金沢市卯辰山	4 ♀	松井正人	松井 (2003)

末筆ながら、本稿をまとめるにあたり、常日頃から多大なご支援・ご助言いただいている石川ふれあい昆虫館の富沢 章氏、ご支援いただき貴重な写真を使用させていただいた浅地哲也、北川章夫の両氏、文献で大変お世話になった富山市科学文化センターの根来尚氏に、厚くお礼申し上げます。

#### 《 参考文献 》

- 浅地哲也 (2003) 石川県金沢市のトゲナナフシ. 翔(165):1.  
 日浦 勇 (1993) ナナフシ目. 原色日本昆虫図鑑(下)全改訂新版:54-55. 保育社.  
 松井正人 (2003) 石川県金沢市で11月にトゲナナフシを採集. 翔(165):7-8.  
 中村誠喜 (1975) 石川県産直翅目. とっくりばち(28・29):1-8.  
 根来 尚 (1993) 富山県産ナナフシ類分布資料. 富山市科学文化センター研究報告(16):95-96.  
 岡田正哉 (1996) ナナフシ類. 日本動物大百科(8) 昆虫I:114-117. 平凡社.  
 岡田正哉・丹羽 力 (1981) 日本産ナナフシ類について(I). 昆虫と自然16(7):25-28.  
 岡田正哉・丹羽 力 (1982) 日本産ナナフシ類について(III). 昆虫と自然17(4):5-9.  
 大串龍一 (1995) 金沢城跡産動物目録ナナフシ目. 城跡の自然誌. xix-xx.  
 酒井哲弥・佐々治寛之 (1998) ナナフシ目. 福井県昆虫目録(第2版):58. 福井県.  
 徳本 洋 (1998) ナナフシ目. 石川県の昆虫:68. 石川県.  
 吉長高嶺・松井正人 (2003) 宝達山でヤスマツトビナナフシを採集. 翔(165):2.

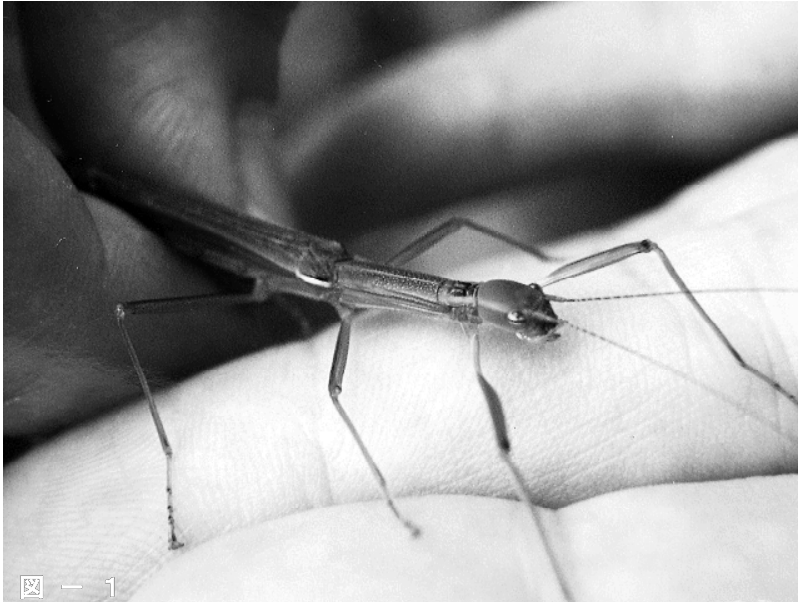


図-1. シラキトビナナフシ  
金沢市奥新保医王山登山口  
2000年8月20日  
浅地哲也 撮影

図-2. ニホントビナナフシ  
金沢市奥新保医王山登山口  
2000年8月20日  
浅地哲也 撮影

図-3. ナナフシモドキ  
金沢市角間  
2000年8月5日  
北川章夫 撮影

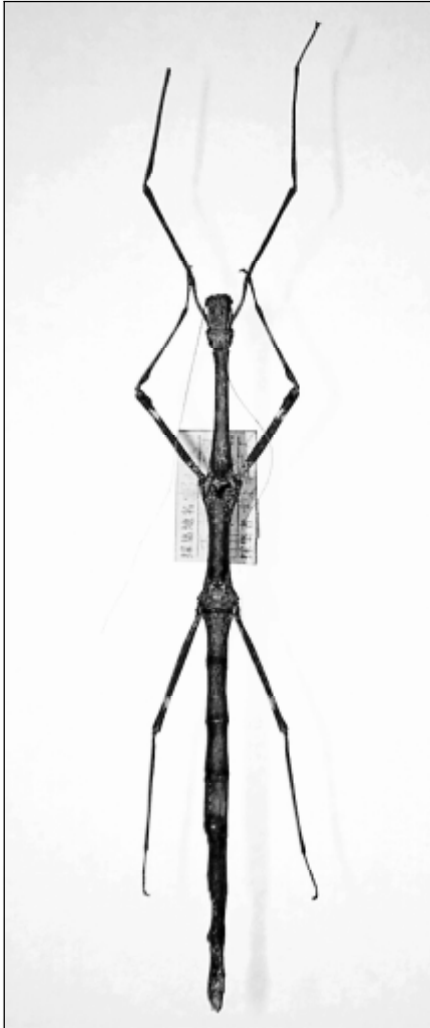
## 富山県上平村のエダナナフシ

松井正人

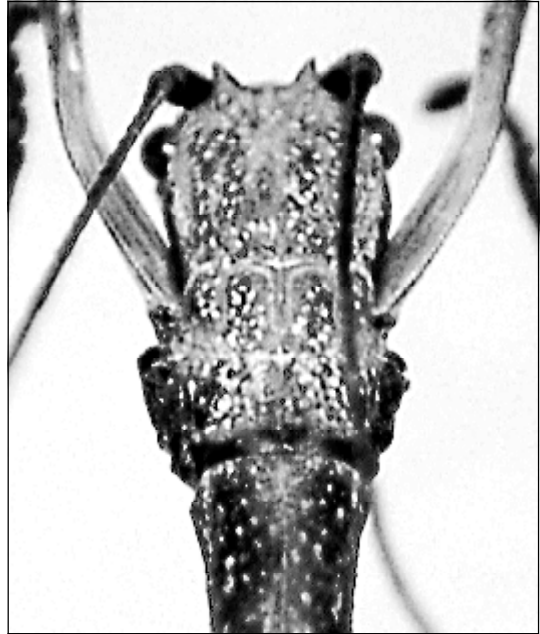
実家に残してきた古い標本箱の中に、ナナフシの仲間を見つけたので報告する。30年以上も前の古い標本で、当時は図鑑の類も持たず、ナナフシの仲間としてしまい込まれていた。体長は95mm。

### ■エダナナフシ *Phraortes illepidus* (Brunner von Wattenwyl)

1971年8月8日 富山県東砺波郡上平村小瀬 1♀ 松井正人



触角は後方に整形され、先端は後脚付根より後方の第2腹節まで達している（実物大）



頭部後方から角状突起を見る



頭部前方から角状突起を見る

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 石川県金沢市で11月にトゲナナフシを採集

松井正人

金沢市卯辰山に生息するトゲナナフシについては、浅地（2003）に報告されている。浅地（2003）は、本種を10月以降に観察していないが、岡田（1999）は、本種の出現期を本州では初春～晩秋としているので、浅地氏にご教示いただいた生息地において、11月に調査を行ったところ、4♀を採集することができたので報告する。

調査は、11月9日と11月15日の2回行い、9日は小雨が降る寒い日で、15日は薄日が差す暖かな小春日和だった。本種を採集したのは15日で、落ち葉が掃き集められた陽の当たる石段に張り付き、まるでひなたぼっこでもしているようだった。

トゲナナフシ 2003年11月15日 金沢市卯辰山 4♀ 松井正人





最後に、トゲナナフシの生息地についてご教示いただいた浅地哲也氏、調査にご協力いただいた卯辰山富国神社神主の河崎晴夫氏にお礼申し上げます。

《 参考文献 》

浅地哲也 (2003) 石川県金沢市のトゲナナフシ. 翔 (165) : 1.

岡田正哉 (1999) ナナフシのすべて. 55pp. トンボ出版.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 2003年石川県小松市のホシチャバネセセリ

大 脇 淳

ホシチャバネセセリは、環境省レッドデータブックでは絶滅危惧2類になっているが、石川県内では最近の記録が少なく心配になり、調査を行ったところ健在だった。しかし、何の変哲もない環境に生息しているので、工事などで真っ先に被害を受けそうな気がした。

今回は、石川県の昆虫(蝶類) (松井, 1998) を参考に、過去に記録のある以下の3ヶ所で調査を行った。

### ■小松市原

谷筋に道が続いていて、両側に杉が植林されている。道には所々日が射していたが、全体的には比較的明るいスギ植林の林内といった感じで、ホシチャバネセセリ以外のめぼしい蝶は、いないような環境だった。採集個体は、ウドとオトコエシに吸蜜に来ていた。

2003年8月22日 石川県小松市原 2頭採集 大脇 淳

### ■小松市麦口

ここは普通の二次林で、林内の路上に静止していたが、吸水行動をとっていたかは分からない。

2003年8月22日 石川県小松市上麦口 1頭目撃 大脇 淳

### ■小松市遊泉寺

観察できなかった

《 参考文献 》

松井正人 (1998) 蝶類. 石川県の昆虫:342-365. 石川県.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

とつくりばち七十号発行

遅れ気味ながら、二十四頁と今回もボリュームの有る号が発行された。能登のハラビロやイカリモン、希少なサナエの仲間、金沢城址の変遷等、読み応えは充分。

むしの会の例会に十六人参加

新体制になって定例会も定着し、活動が活発化している石川むしの会、この十月例会の参加者が十六人と、実動部隊も確実に育っている。

七泊八日の沖繩採集旅行

毎日が日曜の小父さんの一人、日吉芳朗氏は細沼名ガイドと共に、石垣・西表で飽く事も無く網を振った。今回は、お天気にも恵まれ、首尾は上々。話題の人面蟬シロモンクロシジミも多数ゲット。

アサギマダラ年鑑二〇〇二発行

各県の放蝶状況や再捕獲状況など、これまでの内容に合わせ、全国の地域別と食草別

の食餌植物情報が掲載されている。二〇〇二年の放蝶数は、三六九八四頭。

信じられない劇的再捕獲

十一月一日、鹿児島県喜界島に於いてまさかの再捕獲が起こった。八月七日に輪島で放蝶したアサギと、九月十七日に押水で放蝶したアサギが、同時刻に同一人物に扱って再捕獲された。石川マークを狙っていた再捕獲者の福島氏は、たらりと汗が出たとか。

アサギのお供でテレビに出演

小学校のマーキング活動を追って、アサギマダラの不思議な渡りを紹介したテレビ金沢の番組に、松井氏と日吉芳朗氏が写った。編集を変えて午後六時台に一度も放映され、よい子の昆虫少年少女にはしつかり顔を覚えられた。

再捕獲は七六頭に一頭の割合

今年は、アサギの発生異常の為か、鉢伏山の観察数はわずかとなり、県内のマーキン

グ総数は六八一頭に止まった。ところが、マーキング活動の全国的な盛り上がりから、再捕獲率が高くなり、県内発のアサギマダラが、北は赤城山から南は喜界島と、既に九頭も再捕獲されている。

緊急食料は、お湯かけ三分

オナシクロアゲハに刺激され、クロアゲハを飼ったが、餌のミカン系は手に入りにくい。何度か餌を切らし、最後は押し葉をお湯で戻して食いつないだ。

カシノナガキイムシ猛被害

マイタケが出そうなミズナラの大木が、幹から粉を吹きだして枯れている。数年前は捜さないと見付からなかったが、今はあちこちで何本も枯れているのを見ると、悲しくなってくる。

医王山のゴヨクトラップ

医王山に設置した埋設トラップにガロアムシやウエダオルムがどつきり掛かり、さ

らにはイムナダや謎のナガゴミまでもが掛かった。このトラップ、土壌の隙間に生息する昆虫に絶大な効果がある。

例会の記録

十月九日(木)城南管工一階にて八時から開催。

今回は、手取川の一次調査が終了したカワラバタについて、富沢氏が生息環境と生息範囲について紹介。数年に一度の増水時には水をかぶるような、ほとんど草の生えていない石と砂が混ざる環境を好み、下流から天狗橋にかけて点々と生息する等。同種は石川県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。

その他の話題は、また出た輪島のオナシクロアゲハ、十月の舳倉島にアサギマダラ、徳島のルーミス、能登ではヤコンが採れない、ナナフシの七不思議、使いやすいピンセット、などなど。

参加は、中西、井村、富沢、矢田、細沼、山岸、大脇、久慈の八人。

# 会員の動き・しゃばの動き

**日本産蝶類文献目録のCD化**  
 本編と続編がある日本産蝶類文献目録、この2冊の内容が1枚のCD-ROMに収められる事になった。作業は、同目録続編に続き、白水隆文庫刊行会が行い、二〇〇四年十一月に完成予定。

**宝達山でアサギのマーキング**  
 九月十三日、宝達山で、ふれあい昆虫館主催のマーキング会が開かれた。台風十四号接近によるフェーン現象の暑さの中、十六人が三十五頭にマークした。

**宝達山でアサギのマーキング2**  
 九月十七日、宝達山で再びマーキング会が開かれた。今回は、麓の宝達小学校児童七十八人がマーキングに挑戦。滋賀県から飛来したアサギマ

ダラの再捕獲もあり、全員で百三十頭にマークした。

**旅をする蝶アサギマダラ発行**  
 苦節五年、「旅をする蝶」がついにむし社から発行された。一九九九年六月発行予定が幾多の困難に見舞われながらも、アサギマダラの魅力に取り付かれた者達によって発行の運びとなった。アサギマダラに関する全ての情報や、全国各地の状況が網羅され、初心者はもちろん、ベテランにとっても無くてはならない本となっている。

**慣れない溪流のヤゴすくい**  
 大日、大杉谷、大聖寺と南加賀の河川で、ヒラサナエが採れている。触手を伸ばした富沢氏は、浅地師範を伴い、溪流で慣れないヤゴすくいを

したものの、採れるのは雑魚ばかりで、本命は採れなかった。

**イソアカネ大作戦は不発**  
 昨年、能登と富山で国内初のイソアカネが相次いで採集され、今年もと海岸の湿原調査に出かけた「むしの会の精鋭」二人であったが、大陸からのアカネ類は大ハズレ。もつと風吹かなかなあ〜と大きなため息を漏らしていた。

**与那国島でタイワンヒメシジミ**  
 十月四日、日本初記録のタイワンヒメシジミが与那国島で採集された。非常に小型のシジミでハマヤマトより小さく前翅長は約七ミリ。

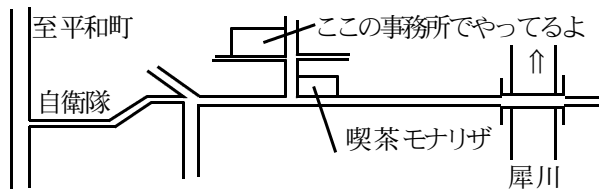
**衝突板トラップ地表型**  
 一時期流行った衝突板トラップの地表型が、静かなブームを呼んでいる。これまでは樹上に吊していたが、透明な衝突板を使って地面の上に置くと、フンチュウやキノコムシなど地表近くを低く飛ぶ昆虫が、ぶつかって落ちる。

## 翔 165号

Tobu 2003年12月10日発行  
 百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>  
 金沢市大場町東871-15 松井方  
 ☎920-3121 ☎076-258-2727  
 郵便振替 00750-8-562  
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
 TEL参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (165号)

浅地哲也：特別寄稿《石川県金沢市のトゲナナフシ》	1
吉長高嶺・松井正人：宝達山でヤスマツトビナナフシを採集	2
松井正人：北陸三県のナナフシ類と石川県のナナフシ類	3
松井正人：富山県上平村のエダナナフシ	6
松井正人：石川県金沢市で11月にトゲナナフシを採集	7
大脇 淳：2003年石川県小松市のホシチャバネセセリ	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10